NO.037

ＦＡＳ通信

平成１８年５月号

株式会社福地建装
北斗市中野通３２４番地
TEL0138-73-5558

◆◇　日本人が忘れた精神（こころ）『もったいない』◆◇

「もったいない」の表現は、物的損失を惜しむ気持ちです。一方その裏側では、失ったものを手にしたり、完成させたり、そこにたどり着いたりするまでの「形には表れない大切なもの」に馳せる感謝の気持ちと、それを無にしてしまった嘆きとが一体となって、日本人独特の精神世界を形づくっています。ものが溢れかえる世界には、「もったいない」という概念は存在しません。日本はもともと資源の少ない国です。

貴重な資源をいかに有効に、有意義に使うかといった「制約された環境」の中で、「もったいない」という意識が芽生えたのでしょう。
「もったいない」に秘められた一番大切な心は、物を惜しむこと以上に、そのものを得るまでのさまざまな苦労に対する感謝と敬愛の念なのです。まさに、日本人の美徳である「もったいない」の心を今一度よみがえらせたいものです。（ノーベル平和賞受賞　ワンガリ・マータイ『もったいない』より）

江戸時代の日本は、リペア業が花盛りで、あらゆるものが修理・再生を重ね使い切られていたため、江戸のような人工密集地でもゴミが散乱することなく清潔な暮らしをしていました。その後、日本が経済的に豊かになると共に、人の心が貧相になり、物を使い捨てに出来る事が豊かさのバロメーターであるかのような錯覚を持つようになりました。
この感覚は小さなものだけに限らず、人が生活する上で根底にある家そのものでさえ使い捨てにされる現実があり、放置できない状況にあります。

せっかく建てた家が３０年で粗大ゴミになるなんて「もったいない」
せっかく暖めたり冷やした空気が逃げていくなんて「もったいない」
家の資産価値が年を経るほどに下がるなんて「もったいない」

世界が認める日本の素晴らしい言葉「もったいない」。この言葉の意味を再認識する事で、省エネ・地球温暖化防止などの世界的な課題解決に寄与するものと思われます。ファースの家とそのグループが先頭に立って「もったいない」の言葉の意味する事を実践して参りましょう。

◆◇　今時の家相　◆◇

昔の日本の家屋には、間取りにも様々な工夫がなされておりました。部屋が障子や襖で仕切られており、開けると大広間になったり、閉めて個室にしたり、その時々のライフスタイルによって使い分けていたのです。家族構成や生活の仕方が大きく変わる場合があり、こうした場合、襖などの仕切りを付けたり外したりで自由に間取り調整を行なってきました。
日本独特の家相もこの国の気候風土の影響で自然に出来上がったものと思われます。家相とは家の中心から北東の部分を「鬼門」と呼び、この部分に玄関などの出入り口などを置くと乾燥した冷たい風が家屋内に入り、悪い事を運び込み「鬼の門」と言われます。「鬼門」の反対側の南西部分を「裏鬼門」と言います。この南西は湿った熱気がこもる部分と言われ、今みたいに水道などが完備されていない時代でした。確かにこの位置での水周りは湿気の伴ったものが腐蝕し易くなるからでしょう。
一番良い場所が南東の位置で「辰巳」と言い、常に穏やかな日差しや空気が入り込み、一緒に「福」が家屋内に入って来ると言われております。
このように家相は、高温多湿、低温乾燥の日本の気候風土に伴い、根拠があって構築されたものと思われます。現在の住宅事情を考えれば、このような家相の考えがそのまま適用するとは思えませんが、ある程度参考にすべき所があると思われます。直接的な関係は全く無いにも関わらず、何か、自分や家族に病気や怪我などの善くない事が起きた時に、ストレスになる場合があります。

幸の知恵袋

～銀製品の輝きは重曹でよみがえる～

最近、銀製品のアクセサリーが多いよね。お値段も手頃でデザインも豊富だから、ついつい買ってしまう女性も多いんじゃないかな。でも、この銀製品って油断するとすぐにくすんでしまうんだよね。そんな銀製品のお手入れには、重曹を使うといいんだよ。
重曹は人体に無害な弱アルカリ性の粉で、昔らか食品や医薬品に使われているんだ。重曹は粉の粒子が細かいので傷がつきにくく磨き粉として使えるだけじゃなく、汚れを分解して落とすスグレモノなんだよ。

お手入れの方法はステンレス製のおけを用意して、中にアルミホイルを敷くんだ。その上に銀製品を並べて、重曹を大さじ 2～3 杯を溶かした熱いお湯を入れて、一晩おくと輝きが戻っているんだよ。